

平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

1. 学校概要

学校名 山梨県 南アルプス市立櫛形西小学校
 種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()
 所在地 〒400-0317
山梨県南アルプス市上市之瀬 7 2 7
 E-mail knishi.es@m-alps.ed.jp
 Website http://www.nishi.m-alps.ed.jp/
 児童生徒数 男子 64 名 女子 49 名 合計 113 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☐ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☐ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☐ そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1年 養蚕

蚕の飼育と団扇づくり

地域講師の指導のもと活動を行っている。蚕は同様の養蚕体験を行っている近隣の小学校より、2齢幼虫を250頭頂いた。生活科の学習とも関連させながら、直接触って見たり、虫眼鏡で細部を観察したりなどから始まった。えさとなる桑の葉は、地域の方の桑畑より頂いた。この桑の葉は、少しでも消毒がかかっていると、蚕が死んでしまうため、細心の注意を払って給餌させた。その間、地域講師が何度なく来校頂き、蚕についてのお話を頂いた。かつて、この学校周辺一帯が、一大養蚕地帯であったことを聞くにつけ、また、校章に桑の葉がデザインとして入っていることなどを見るにつけ、児童の心には、蚕が一層身近なものとして感じられたかと思う。児童各自が飼育器に入れ、週末持ち帰りお世話をする時期もあった。保護者共々蚕についての意識を高められたのではないかと思う。

5齢幼虫になると、いよいよ繭を作り始める。その時期に団扇（骨だけのもの）に蚕をのせる。蚕は元気に糸をはき始める。数日間で団扇がはいた糸で完成となる。一方、通常の形で繭づくりをさせたものは、繭玉を作る。繭玉を破って成虫が出てきたり、交尾したり、産卵する所なども観察した。

2年 チャボの飼育

通年通して、5羽のチャボのお世話をしている。生き物であるがゆえに、手を抜いて世話をするとは、許されない現実を知るとともに、お世話する過程で、産みたての卵を家庭に持ち帰り、食べるという経験もした。

児童のみではできない、鳥小屋の砂の入れ替えは、保護者の方の力を借りて行った。他者の力を借りて活動を維持することもここで学んだ。チャボのお世話をする過程で、命の尊さ、働くことの意味、他者との関わり等を学んだ。

3年 米作り

地域講師を要請し、学校裏にある田を借りて、苗作り、田植え、稲刈り、精米まで行い、最終的にそのお米を使って、地域講師も招いて収穫祭を行った。地域にも田はある。しかしながら、実際に米作りの経験をしている児童は少ない。育苗ポットに種もみを3粒撒くところから始まり、育苗ハウスで育っていく過程を学び、田植えでは、素足で田に入る経験、手で植える経験、刈取りでは、手刈りを経験した上で、機械による刈取りも経験した。刈り取った稲を、“うま”といわれるものに干し、乾燥させ、その後機械による籾の収穫を行った。精米については、近くの農協に持ち込んで行った。交通に気をつけながら、児童が一輪車に乗せ、運んだ。米を作るには、多くの努力が必要であることを感得できる活動であった。

4年 麦作り

地域講師指導のもと、前学年（3年生）の冬からこの活動が始まった。12月の寒い中、種を播く。発芽、成長するにつれ、霜などにより麦が持ちあ

げられるのを防ぐため、麦踏みが行われた。麦踏みの意味を体験によって学ぶ時でもある。その時々成長の様子を観察し、麦刈りとなった。この時は、落穂も無駄にせず拾い、束にした。ものを粗末にしない気持ちを感じた。

乾燥後、麦の脱穀には、昔の道具の活用として足踏み脱穀機を使った。

この取組は総合の時間での取組である。子どもたちの発想のもと、小麦を使った料理となる。今回は、山梨県の郷土料理である“おほうとう”作りに挑戦した。小麦をこね、伸ばしうすく広げ、切り、麺作りを行い、野菜を入れてのみそ仕立てのおほうとうの完成である。地域指導者の方もお招きして、感謝の会の中で、試食した。

伊奈ヶ湖の歴史

本校の西に櫛形山がある。その手前に伊奈ヶ湖がある。この湖は、人造湖である。かつて、本校周辺の農地の灌漑用水確保のために計画され、地域住民の力によって作られたものである。また、伊奈ヶ湖の隣にある北伊奈ヶ湖は、明治時代から大正にかけて水力発電のための水として使われた経過がある。その伊奈ヶ湖には、現在2羽の白鳥がいる。えさ集めの取組は、児童が40数年前から行っている。

5年 林間学校（みどりの少年少女隊）

本校は、みどりの少年少女隊に加盟している。豊かな自然に興味関心を持つとともに、豊かな自然の保護のための活動が大きな目的である。この活動と関わらせて、林間学校がある。4年生で学習した、伊奈ヶ湖には、グリーンウッドビレッジという宿泊施設がある。ここを利用した自然に親しむ1泊2日の体験学習である。講師の指導のもと、野草を天ぷらにして食べる体験、ネイチャーゲーム。また、環境保護としてのゴミ拾い等行った。

伊奈ヶ湖の2羽の白鳥と対面する活動も仕組んである。このことにより、一層、白鳥のえさ集めに対する意識も高まってくる。

ちなみに、1日目の夜は、きも試しが行われる、北伊奈ヶ湖をぐるっと一回りするものである。この場所は、人工的な光がほとんどない。その道々には、保護者・教職員が隠れ、度胸試しをする。漆黒の中、脅かされる恐怖と同時に、自然への畏敬の念も感じる時である。また、保護者・教職員と児童の気持ちが一層近くなる取組でもある。

学校林下草刈り

伊奈ヶ湖近くに、学校林がある。みどりの少年少女隊の活動として、1年に1回、地域講師・市役所職員を招へいして、下草刈りを行う。今年度も実施した。人が手をかけることで、自然環境が保たれることを学ぶ貴重な体験活動であった。後日、森林環境研究所の職員の方に来校頂き、学校にある植物（樹木も含めて）の体験観察学習会を行い、自然に目を向ける場を作った。

6年 地域の歴史学習から修学旅行

本校は、櫛形山の麓にあり、約2万年前から人が住んでいたと言われる市之瀬台地上にある。周辺には多くの住居址、遺跡がある。また、鎌倉幕府の政権下、その中枢にいた小笠原長清の居館が、その台地下にある。6年生は、市役所文化課の職員を講師に、年間を通して、その悠久なる歴史の体験

学習を行い、地域の歴史の重みを感じ得る。特に、小笠原長清は、源義経と同等の幕府内の位置関係と言われる所から、いやがうえにも意識は高揚する。歴史学習を充分経たうで、秋には修学旅行を行う。鎌倉散策においては、その学習の足跡をたどるいい経験であった。3学期には、縄文土器づくりを行い、複製の縄文土器を使って調理を行う。その時の材料は、その時代採れたと思われるものによる。

全校 白鳥のえさ集め

エコキャップ、古切手、テレホンカード、書き損じ葉書集め

児童会を中心とした取組として、多くのボランティア活動がある。その中でも、白鳥のえさ集めは、40数年前から取り組まれている活動である。

えさ集めのビラを児童会が作成し、各地区の回覧板に入れてもらい、協力をお願いしている。11月から3月は、地域の方、保護者の方から多くのえさが本校に集まってくる。この活動は、今後も続けていく活動である。

その他

ユネスコESDパスポート

5年生が、みどりの少年少女隊として活動するのに合わせて、ユネスコESDパスポートを配付する。これは、校内外でのボランティア活動を記録し、30ボランに達すると日本ユネスコ協会より、認定証が与えられる活動である。

今年度の取組を見ると、地域の奉仕作業、伝統行事への参加など、地域に密着した取組をしている。今後も継続した取組となる事を期待するとともに、積極的支援をする。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- ☐ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☒ その他（ 児童の放課後等の自由な時間における自主的な取組 ）